



西村愿定《昭和の森》平成2年（1990）油彩・キャンバス 伊豆市資料館蔵

少々気障<sup>きざ</sup>な言い方をすると、伊豆は私の  
第二の故里であるともいえる。  
それ程のかかり合いと、忘れられない  
想い出の数々が残っている。

西村愿定「伊豆に憶う」

企画展

げんてい先生

天城を愛した画家

西村愿定

もと

さだ

2026  
1/4 | 日 |  
▶ 2/25 | 水 |

開館時間：9：00～16：00（最終入館 15:45） 休館日：木曜日  
入館料：大人 210 円 小中高生 100 円



企画展

# げんてい先生 天城を愛した画家 西村愿定

もと  
さだ

昭和期に活躍した洋画家・西村愿定<sup>もとさだ</sup>は、天城（現・伊豆市天城湯ヶ島地区）の人々から「げんてい先生」と呼び親しまれ、伊豆を「第二の故里」として生涯にわたり天城の風景を描き続けました。

西村は大正 3 年（1914）、東京府東京市小石川区（現・東京都文京区小石川）に生まれ、昭和 14 年（1939）に東京美術学校油画科（現・東京藝術大学）を卒業。日展、光風会で評議員を務めました。

天城とのつながりは昭和 33 年（1958）、当時伊東に在住していた書家で日本画家でもある内山雨海<sup>うかい</sup>が結成した「天城山系自然観察隊」に参加したことをきっかけに始まります。その際に案内役を務めた旅館の主人・宇田博司と心を通じ合わせたことから、天城観光協会（現・伊豆市観光協会天城支部）のポスター原画を手がけることとなり、地域の人々との交流も深めていきました。この交流は、西村が平成 5 年（1993）に没するまで 36 年間続きました。

本展では、西村愿定と天城の人々の交流の様子とともに、天城を描いた風景画を紹介します。人々の温かなつながりに包まれた天城の姿をどうぞご覧ください。



西村愿定《山峡の村（長野部落）》昭和 55 年（1980）油彩・キャンパス 伊豆市資料館蔵



西村愿定が愛用していた煙草ケースと灰皿 個人蔵



西村愿定《浄蓮の滝》昭和 33 年（1958）油彩・キャンパス 伊豆市資料館蔵

## 伊豆市資料館常設展

常設展では、伊豆市の郷土に関する資料を展示しています。



### 大型有孔虫レビドサイクリナの化石

伊豆半島がかつて南の海にあったことを示す貴重な資料です。この化石が産出した露頭は「下白岩のレビドサイクリナ化石産地」として静岡県指定天然記念物に指定されています。



### 江川英龍（坦庵）《龍》（部分）

蜷山代官 江川太郎左衛門英龍（坦庵）が描いた龍の掛け軸で、伊豆市内の旧家に伝えられました。

### アクセス



車：国道 136 号修善寺横瀬交差点より伊東方面へ約 10 分。

電車・バス：伊豆箱根鉄道「修善寺」駅よりバス約 10 分（伊東方面「白岩」バス停下車）。